

会 報

No.41 (1992年 2月)

目 次

- ◆1991年度日本分子生物学会評議員会議事録 1
- ◆第14回日本分子生物学会総会議事録 3
- ◆第15回(1992年)日本分子生物学会年会のお知らせ(その1) 5
- ◆米国の超伝導大型粒子加速器(SSC)と日本の基礎科学振興に関する
問題について 6
- ◆分子生物学に関する欧文誌の発刊について 9
- ◆新化学発展協会研究奨励金について 10
- ◆各種研究助成などへの本学会推薦について 11
- ◆学会事務局の移転について 11
- ◆各種シンポジウムのお知らせ 12
 - 千里ライフサイエンスセミナー「複合糖質研究と臨床医学の接点」... 12
 - 第1回マリンバイオテクノロジー研究発表会 13
 - 第43回タンパク質構造討論会 14
 - 第40回日本ウイルス学会総会 15
 - 第19回核酸化学シンポジウム 15
 - 第22回日本免疫学会総会・学術集会 16

日 本 分 子 生 物 学 会

(THE MOLECULAR BIOLOGY SOCIETY OF JAPAN)

◆ 1991年度日本分子生物学会評議員会議事録

日 時 1991年12月16日(月) 午後4時～8時

場 所 福岡サンパレス 平安の間

出席者 三浦謹一郎(会長)、饗場弘二、石浜 明、岩淵雅樹、大石道夫、小川英行、大島靖美、榊 佳之、高浪 満、富沢純一、松原謙一、水野重樹、村松正実、柳田充弘、榊原祥公(会計幹事)、関口睦夫(編集幹事)、吉川 寛(集会幹事)、堀内忠郎(第14回年会会長)、今本文男(第15回年会会長)

報告事項

- (1) 三浦会長より、第7期役員選出経過(選出評議員20名のうち、吉川 寛氏が集会幹事に転出のため19名で構成)、会長に一任されていた諸幹事および会計監査の指名の経緯について報告があった。なお、選考委員として吉川 寛氏の代りに小川英行氏を選出した。
- (2) 同じく、11月20日現在の個人会員数は4,700名(名誉会員2名、正会員3,359名、学生会員1,270名、外国在住会員69名)、賛助会員は29社(36口)で、前年同期の約600名増であることが報告された。
- (3) 堀内忠郎第14回年会会長より、この年会においては1,340題のポスター発表、39題のシンポジウム講演と3題の特別講演が予定されていることなどの準備状況についての報告があった。

協議事項

- (1) 榊原会計幹事より前年度会計収支決算報告、および来年度事業計画ならびに予算案が提示された。来年度より事務謝金が廃止され庶務事務費(庶務幹事への謝金)が新たに計上された。本予算案を決定し、総会に諮ることにした。
- (2) 1992年度第15回年会について
1992年度第15回日本分子生物学会年会(京都地区)について、今本文男年会会長より、会期は12月7日(月)～12月10日(木)、会場は国立京都国際会館で行う予定であり、特別講演として外国から2名を招待すること、一般の発表形式の案についての報告があり、了承された。
- (3) 1993年度第16回年会について
1993年度第16回年会担当を東京地区とし、年会会長を大石道夫東大応徴研教授に委嘱することを決定した。大石評議員より、会期および場所(京都、沖縄、神戸、横浜など)を検討中である旨報告があり、来春開催予定の臨時評議員会で決定することで承認された。

(4) 欧文誌の発刊について

前年度将来計画委員会で検討し、富沢純一氏に feasibility study をお願いしていたが、現在評議員である富沢氏からこの問題について基本的な考え方に関する説明があり、総会でも説明することが了承された。

(5) 科学研究費について

分子生物学研究連絡委員会の報告として高浪、吉川両氏より、再来年度より科学研究費複合領域に基礎生物科学という新しい分科が新設され、その細目として「生物物理学」、「細胞生物学」、「発生生物学」と共に「分子生物学」が独立してたてられることが報告された。

(6) 国際生化学連合 (IUB) の改称に伴う対応について

1991年8月イスラエルにおける総会での IUB の名称変更 (International Union of Biochemistry and Molecular Biology (IUBMB) へ改称) の議決について今後の日本側の対応について議論した。これまでの IUB への対応は生化学研究連絡委員会が窓口であり、これを続けることになるが、分子生物学関係者の生化学研究連絡委員会の中での増員を要望することとした。

(7) 臨時評議員会の開催について

次々回年会の開催を初めとする懸案の協議のため来春4、5月頃臨時評議員会の開催が会長より提案され、日時、場所は会長に一任することで了承された。

(8) その他

- 環境庁が DNA 組み換え体の野外実験に対する規制法案の提出を準備中という事態への対応が議論され、分子生物学研究連絡委員会で検討することとした。
- 香川評議員より、重点領域研究「遺伝病」に関し、遺伝子解析のデータの取扱い方、米国のガイドラインとのすりあわせなどについての問題提起があった。
- 学会やシンポジウムに対する見直しの提案があり、次回評議員会で検討することとした。

◆第14回 日本分子生物学会総会議事録

日 時 1991年12月19日(木) 午後6時～7時

場 所 福岡サンパレス 大ホール

(1) 三浦会長挨拶の後、議長として清水憲二(九大)、広瀬 進(遺伝研)両氏が会長より推薦され、承認された。議長は委任状203通を含め、総会の成立を確認した。

(2) 経過報告

a) 庶務報告：渡辺庶務幹事より、前回総会以降の本学会事業の経過について報告があった。

b) 会長報告：三浦会長より第7期役員構成についての変動、諸幹事、会計監査の会長指名の経緯、次々年度年会(第16回)、欧文誌刊行についての調査経過、臨時評議員会の開催(4、5月頃)など、11月16日の評議員会での論議に基づいた報告があった。

(3) 議 事

a) 会計および事業計画：榊原会計幹事より前年度(1990年)会計収支決算報告があり、承認された。

同じく来年度(1992年)事業計画および下記のような予算案について説明があり、承認された。

1992年度日本分子生物学会収支予算案

(1992年4月1日～1993年3月31日)

収入の部

科 目	前年度予算額	予 算 案	摘 要
学 会 費	8,750,000	9,980,000	{ 入会金 200,000 正会員 7,530,000 学生会員 2,250,000
賛 助 会 費	1,080,000	1,080,000	36口
広 告 収 入	0	2,000,000	会員名簿広告料
預 金 利 子	400,000	500,000	
雑 収 入	300,000	200,000	印税他
小 計	10,530,000	13,760,000	
前年度繰越金	10,000,000	2,000,000	(見込概算)
総 計	20,530,000	15,760,000	

支出の部

科 目	前年度予算額	予 算 案	摘 要
事業費	2,700,000	2,800,000	
（ 会 報 発 行	（ 900,000	（ 900,000	第15回年会 ”
（ プ ロ グ ラ ム	（ 600,000	（ 700,000	
（ 特 別 講 演 謝 金	（ 200,000	（ 200,000	
（ 第 1 6 回 年 会 補 助	（ 1,000,000	（ 1,000,000	
評議委員会費	800,000	2,800,000	
（ 委 員 会 費	（ 800,000	（ 800,000	会員増に伴う手数料 up 等
（ 役員選挙名簿作製費	（ 0	（ 2,000,000	
業務委託費	4,000,000	4,400,000	
一般事務費	2,985,000	4,545,000	
（ 用 品 費	（ 5,000	（ 5,000	会報と会員名簿発送
（ 印 刷 費	（ 80,000	（ 80,000	
（ 通 信 費	（ 2,800,000	（ 3,800,000	
（ 事 務 謝 金	（ 50,000	（ 0	
庶務事務費	0	650,000	庶務幹事謝金
（ 雑 費	（ 50,000	（ 10,000	
準備金	8,000,000	0	
予備費	500,000	300,000	
小 計	18,985,000	14,845,000	
次年度繰越金	1,545,000	915,000	
総 計	20,530,000	15,760,000	

b) 欧文誌刊行問題：大石道夫将来計画委員会委員長より欧文誌の刊行についての検討経過についての説明があり、feasibility studyを一任されている富沢純一評議員より、欧文誌発行についての基本的な考え方や出版方法などについての報告があった。この問題に関しては本会報に将来計画委員長からの報告記事があるので参照されたい。

(4) その他

総会終了後、堀内忠郎第14回年会会長の挨拶があり、引続き今本文男次回年会会長より第15回年会の日程と準備状況について説明があった。

◆第15回(1992年)日本分子生物学会年会のお知らせ(その1)

第15回 日本分子生物学会年会は下記の要領にて開催されます。

1. 会 期：1992年12月7日(月)～10日(木)
総会および懇親会 12月9日(水)に開催予定
2. 会 場：国立京都国際会館 本館ならびにイベントホール
(京都市左京区宝ヶ池)
3. 発表形式：現在は下記の要領で検討を続けているところです。詳細は次回の会報でお知らせいたします。
 - (1) 年会は一般口頭発表、ポスターセッション、シンポジウム、および特別シンポジウムで構成する。
 - (2) 演題の公募に際して(6月の会報：第42号)、シンポジウムのテーマ(約11題)、一般口頭発表とポスター発表のセッション名を記載し、発表希望者を募集(7月末締切)する。発表は会員1名につき1題とし、世話人と準備・プログラム委員会で採択を決定する。シンポジウムと一般口頭発表の希望者のうち、これらのセッションへ採択されなかった方は、ポスター発表にさせていただく。シンポジウムは招待講演(全体の1/3程度)を含む。
 - (3) 特別シンポジウムは、9日の午前と午後に行い、それぞれのセッションは1名の海外招聘研究者と3名の国内研究者の講演で構成する。
 - (4) シンポジウムならびに特別シンポジウムと並列で開催しうる“ミニ・シンポジウム”ならびに“ラウンド・テーブル・ディスカッション”の企画希望者を公募し、希望者には会場(90名収容、4～6室)を提供する。

発表形式、実際の運営等についていろいろご意見がおりかと思ひます。準備委員会としては、よりよい年会を持ちたいと考えておりますので、ご意見、あるいはご希望がございましたら、なるべく早い時期に準備委員会までお知らせ下さい。

第15回 日本分子生物学会年会

準備委員会委員長

今本 文男(京都薬科大学生命薬学研究所)

(FAX: 075-502-1613)

◆米国の超伝導大型粒子加速器（SSC）と日本の基礎科学振興に関する問題について

会 長 三浦 謹一郎

米国に建設が計画されている超伝導大型粒子加速器（SSC）について米国が日本に経済的援助を要望していることは皆様よくご存じのことと思います。我々の多くは「日本がアメリカに協力することが政治的な問題として必要であるとしても、そのために我々基礎科学の研究者達がただでさえ少ない研究費を割くことはできない。我々はむしろ基礎科学の研究費の大幅な増額を要求したい」と思っております。この問題に関して、1月のブッシュ大統領訪日を前にして昨年末に東京大学教養学部生物学教室 馬淵一誠氏を代表とする有志の方々が基礎生物学関係の各学会でこの問題についてブッシュ氏訪日までに何かアクションをとってもらえないかという訴えがありました。時間がないので評議員の方々に FAX で意見を伺いましたところ、何人かの方々から学会としてアピールを出すとか、ジャーナリズムに投書をするなどの行動が必要という感触を得ました。そこでなるべく効果的な方法を取りたいと思い、連絡がとれるいくつかの学会の代表者と協調してとりあえず文部大臣あてのアピールを出すことにしました。ちょうど年末年始の時期で連絡が取りにくかったのですが、幸い基礎生物学の中でも横断的な6学会の会長または理事長の賛同が得られ、下記のような手紙をブッシュ氏訪日前に鳩山文相に渡すことができました。その内容はここで連絡を取り合った人々が共通に考えていることに基づいてまとめたものです。

このようなアピールは日本学術会議からも出されており、ブッシュ氏帰国後鳩山文相から宮沢総理あてに「SSCの費用は文部省からは一切出しません」という申入れをされています。我々はこの機会に日本の基礎科学研究の重要性について広い範囲の人々に理解してもらい、今後の研究費の抜本的増額や人材の確保などに協力してもらうことが必要だと思います。文相だけでなく、もっと広い範囲にアピールすることを準備中です。皆様のご意見があれば評議員の方々を通してでもお伝え下さい。

追 記

2月10日付けの日本経済新聞に物理学者の久保亮五先生の意見書が掲載されていますが、この意見は現在のこの問題に関するレビューとして皆様にご参考になると思われまますので、コピーを掲載いたします。

文部大臣 鳩山 邦夫 殿

新年あけましておめでとうございます。

文化国家としての日本の科学の研究・教育の振興について日頃関心をもっていただいております。ここに急いで手紙をさしあげますのは、基礎的な科学研究を行っております研究者の多くが最近危惧を抱いている問題について至急に聞いていただきたいからであります。米国に建設中の超伝導超大型粒子加速器（SSC）の建設の財源の一部負担を米国大統領が日本政府に求めていることでもあります。今回の大統領訪日に際してこの問題がどのように討議され、処理されるかについて私達基礎科学の研究者は深い関心をもっており、事の成り行きに関しては危機感すらもって心配しております。

SSCは基礎科学にとって重要な装置であります。これに要する費用は莫大なものであり、米国が要求しているといわれる十数億ドルは日本の文部省が扱う科学研究費総額（年間）の数倍にも達するという巨額であります。

日本における現在の「科学研究費」もプロジェクト化された部分が多く、本当の基礎研究費としては抜本的な増額が必要であると私どもは思っている状態にありますから、今回のSSC負担のしわよせが今後の「科学研究費」の伸びに及ぶことを大変危惧しております。

昨今、大学の研究施設の貧困な状態や若い研究者の海外や応用研究の企業などへの流出の事情などが明らかにされておりますが、われわれは日本の基礎科学の振興について抜本的な国の援助をお願いしたいと思っております。この時点で日本の基礎科学全般の発展のための手を打たなければ、21世紀の日本の科学の進展は望めないと考えられます。

われわれ基礎科学研究者も今回の大型粒子加速器SSCやヒューマン・ゲノムの問題のようなビッグ・サイエンスにどう対処すべきかを充分に考えることが必要ですが、ビッグ・サイエンスのためにこれに含まれない基礎研究が追いやられてしまうというような事態にはならないように願っております。

文部省では基礎科学の振興について大変努力していただいていることを評価いたしますが、この機会に日本における基礎科学の振興にこれまで以上に格段の御配慮をいただきたいと願っております。

1992年1月6日

葛西 道生（日本生物物理学会会長）
西塚 泰美（日本生化学会会長）
三浦謹一郎（日本分子生物学会会長）
森脇 和郎（日本遺伝学会会長）
矢原 一郎（日本細胞生物学会会長）
吉倉 廣（日本ウイルス学会理事長）

◆分子生物学に関する欧文誌の発刊について

懸案であった分子生物学の欧文誌の発刊については昨年の評議員会で富沢純一評議員（国立遺伝学研究所・所長）に feasibility study を依頼していたが、1991年12月福岡市で開催された日本分子生物学会評議員会および総会において富沢評議員より調査結果の報告がなされた。富沢評議員の説明・提案の概要は以下の通りである。

日本分子生物学会の欧文誌は国際的に通用する一流誌であることが望ましく、対象は「生命現象の基本的分子メカニズム」に関するものがもっとも適当である。より具体的にイメージを述べると、例えば Cell と J. of Molecular Biology の中間に位置するともいえる journal を目指し、biophysical aspects を加味したものが適当であると考えられる。

また、単に日本分子生物学会会員の成果を欧文で発表するというような従来の我が国の欧文の学会誌の概念に捉われることなく、生命現象の基本的分子メカニズムに焦点をあてた純粋な国際誌を目指す。Editorial board の構成等、出版の形態は検討中であるが、日本の研究者の意志に基づくという意味での主体性を保った上で、board member は国際的な視野で選定されるべきものと考えられる。出版に関しては現在、外国出版社を含む数社とその可能性について検討を行っている。今後はこの構想に沿った具体案、とりわけ日本分子生物学会の関わり方、財政上の問題などを検討することが必要であろう。

以上の説明、提案に関して、評議員会では活発に議論が行われ、富沢案の大筋が了承されたが、特に財政上の問題については何らかの形で一般会員の賛助を考えるのがよいという意見があった。また、その後行われた総会でも、欧文誌発刊へ向けて踏み出すことが承認された。欧文誌発刊の最終承認は1992年の前半に行われる臨時評議員会において具体的な検討を行った後になされるが、承認されれば1年半ないし2年の準備期間を経て発刊されることになろう。

なお、本件に関して会員諸氏の意見を伺いたく、意見があれば将来計画委員会の大石道夫氏（東京都文京区弥生1-1-1 東京大学応用微生物研究所 TEL 03-3812-2111 内7834 FAX 03-3818-9437：〒113）まで意見を寄せて欲しい。

◆新化学発展協会研究奨励金について

平成4年度研究奨励金応募者の募集について

社団法人 新化学発展協会

社団法人 新化学発展協会においては、基礎研究の推進と研究者の育成を通じて新化学の発展を図るため、新化学の発展に資する若手研究者の研究に対し、概要下記の通り、研究奨励金を交付致します。研究奨励金の交付を希望される方は、下記の課題の中から1つを選んで所定の用紙にて研究計画を作成し、略歴、既発表論文の一覧表とともに協会事務局まで提出して下さい（詳細は、新化学発展協会までお問合わせ下さい）。

1. 研究課題

- ① 遺伝情報翻訳系の分子機構の研究
- ② 人工感覚システム（味、臭、聴、視覚）に関する研究
- ③ 有機薄膜の構造解析に関する研究
- ④ 分子レベル結晶成長技術とその応用に関する研究
- ⑤ 予め分解を考慮した汎用ポリマーの分子設計に関する研究
- ⑥ ペロブスカイト型酸化物の化学的機能（触媒、センサー等）創生に関する研究
- ⑦ 環境問題に対応した、有用化学品製造のための新触媒に関する研究
- ⑧ コンピュータによるポリマーアロイを中心とした物性予測法の研究
- ⑨ 化石燃料の生物処理に関する研究

2. 応募資格

大学等における研究者であって、39歳以下の者（昭和27年4月1日以降に出生した者）

3. 件数および金額

原則として各課題毎に1件、1件につき150万円

4. 条 件

1～2年以内に協会の研究会等で研究成果を報告する。

5. 応募の締切りおよび交付の時期

応募の締切り 平成4年3月19日（木）

奨励金の交付 平成4年6月の予定

6. 応募および問合わせ先

〒101 東京都千代田区神田駿河台1-5 化学会館 4階

社団法人 新化学発展協会 研究奨励金係（担当 繁戸）

TEL 03-3294-8031

◆各種研究助成などへの本学会推薦について

○(財)ブレインサイエンス振興財団第6回研究助成候補者として、本学会選考委員の意見に従い、下記1件を推薦した。

荒井勇二(国立循環器病センター研究所)

○第4回(1991年度)東燃研究奨励賞受賞者が本学会より推薦していた下記2名に決定し、平成3年12月20日福岡サンパレスの第14回年会会場において授与式が挙行された。

井上邦夫(京大・理)、後藤由季子(東大・理)

○平成3年度(第18回)日産学術研究助成候補者として本学会が推薦した9件のうち、下記2件が採択された。

(奨励研究) 宮脇敦史(阪大・蛋白研)、柳澤修一(大阪市大・理)

◆学会事務局の移転について

○日本分子生物学会の事務局を委託している日本学会事務センターは、本年4月13日より下記に移転されることになり、併せて学会事務局も移転いたします。

○新しい連絡先と電話番号等は下記の通りです。会員各位にはご迷惑をおかけいたしますが、ご了承のうえよろしくご協力下さい。

新連絡先 〒113 東京都文京区本駒込5丁目16-9

学会センター C21

(財)日本学会事務センター内

新電話番号 03-5814-5801 学会業務部(庶務・窓口、渉外)

5810 会員業務部(入退会、住所変更等、会費、会報)

(FAX: 03-5814-5820)

◆各種シンポジウムのお知らせ

○千里ライフサイエンスセミナー「複合糖質研究と臨床医学の接点」

日 時 平成4年4月24日(金) 午前10時～午後4時30分

会 場 信用保証ビル3階(地下鉄御堂筋線千里中央駅すぐ)

(大阪府豊中市新千里東町1-2-4)

主 催 財団法人 千里ライフサイエンス振興財団

協 賛 株式会社 千里ライフサイエンスセンター

プログラム

1. ムチン糖鎖と臨床医学の接点
京都産業大学工学部 教授 山科 郁男
2. ムチンコア蛋白のモノクローナル抗体：第二世代の抗体
札幌医科大学第一内科 講師 今井 浩三
3. 糖転移酵素と臨床医学の接点
大阪大学医学部 教授 谷口 直之
4. 硫酸化キチン誘導体による癌の転移の抑制
北海道大学免疫科学研究所 助手 済木 育夫
5. 細胞接着と糖鎖
愛知県がんセンター研究所病理学 部長 神奈木玲児

受講料 主催・協賛団体会員：5,000円

一般(非会員) : 7,000円

大学関係・学生 : 3,000円(講演要旨集含む)

参加申込締切 定員(150名)になり次第締切

参加申込方法 ①氏名②勤務先、所属、役職名、所在地、〒、電話、FAX 番号③振込
予定日を明記の上、葉書またはFAXで下記宛お申込み下さい。参加費は申込
後に住友銀行千里中央支店・普通預金No.128278・(財)千里ライフサイエンス
振興財団口座宛開催日の3日前までにお振込下さい。なお振込の際振込者名の
前にD1とご記入下さい。ご送金確認次第、領収書兼参加証を送付致します。

申込先 〒565 大阪府豊中市新千里東町1-4-1

阪急千里中央ビル9階

(財)千里ライフサイエンス振興財団

「複合糖質研究と臨床医学の接点」係

TEL 06-871-5535 FAX 06-871-5530

担当：江口・松尾

○第1回 マリンバイオテクノロジー研究発表会

会 期 平成4年5月30日(土)、31日(日)

会 場 東海大学海洋学部(清水市)

主 催 マリンバイオテクノロジー研究会

協 賛 東海大学海洋学部、海洋バイオテクノロジー研究所(予定)、日本分子生物学会ほか

講演申込締切 平成4年3月31日(火)

①題、②分類(下記の1~9の番号を記入)、③発表者(講演者に○をして下さい)、④所属、⑤申込者、住所、電話番号を明記して下記あてに申し込んで下さい。

一般講演(15分)

1. 大型藻類
2. 微細藻類(一般)
3. 微細藻類(CO₂)
4. 海洋微生物(一般)
5. 海洋微生物(深海)
6. 魚介類
7. 生理活性物質
8. 生理、生化学
9. 支援技術・その他

シンポジウム

日本における海洋バイオ研究の展望

海洋生物の共生関係

海洋バイオ研究における遺伝子工学

付着生物とその防除対策

石油分解

その他

アブストラクト締切 平成4年4月30日

参加費(要旨集含む)

マリンバイオテクノロジー研究会学術会員 4,000円

上記会員外 9,000円

申込先

〒105 東京都港区虎ノ門3-18-6 朝日虎ノ門ビル202

マリンバイオテクノロジー研究会事務局

TEL 03-3434-1083 FAX 03-3434-2789

○第43回 タンパク質構造討論会

会 期 平成4年10月13日(火)、14日(水)

会 場 都久志会館(福岡市中央区天神4丁目8-10)

共 催 日本化学会、日本生化学会、日本生物物理学会、日本薬学会、日本農芸化学会、
日本分子生物学会、日本蛋白工学会

講演申込み締切 5月30日(土) 必着

1. 講演は断片的な研究発表ではなく、データがよく吟味されていて活発な討論の対象になり得るものに限り、第65回日本生化学会大会(福岡)の直後ですので、同大会へ発表するものと同様の講演の申し込みは御遠慮願います。
2. 講演総数は約25件に限って、討論を十分にしたいと考えております。申込み多数の場合、採否は世話人にお任せ願います。
3. 採否につきましては、6月中旬頃までに世話人より講演申込者に直接御連絡致します。
4. 講演時間は、討論を含めて30分の予定です。
5. 講演申込みは、発表者、所属、連絡先(Faxおよび電話番号も併せて記入して下さい)、題目、および要旨(特に討論の対象となる箇所については具体的に記述して下さい。1200字)を、すべてB5判、400字詰め横書き原稿用紙に記入して、世話人宛てにお送り下さい。

講演要旨原稿締切 8月10日(月)

詳細は採択講演の申込者に直接連絡致します。

参加費 3,000円(学生1,500円)

要旨集代 2,000円(送料込)

懇親会費 4,000円(学生2,000円) (いずれも予定)

申込みおよび連絡先 〒812 福岡市東区箱崎6丁目10-1

九州大学理学部化学教室 大野 素徳

TEL 092-641-1101 内線4235

FAX 092-632-2734

○第40回 日本ウイルス学会総会

会 期 平成4年(1992年)10月28日(水)～30日(金)
会 場 神戸国際会議場(〒650 神戸市中央区港島中町6丁目9番地の1)
神戸国際展示場(〒650 神戸市中央区港島中町6丁目11番地の1)
会 長 本間 守男(神戸大学医学部微生物学教室)
TEL 078-341-7451(内線3302)
演題締切日 平成4年6月18日(木)(消印有効)
連絡先 第40回 日本ウイルス学会総会 事務局
(財)日本学会事務センター 大阪事務所 気付
〒530 大阪市北区松ヶ枝町6-3 第10田淵ビル
TEL 06-356-6041 FAX 06-356-6190

○第19回 核酸化学シンポジウム

会 期 平成4年11月11日(水)～13日(金)
会 場 パピオン24内 ガスホール
(福岡市博多区千代1丁目17番地1号)
TEL 092-633-2222
共 催 日本化学会・日本生化学会・日本生物物理学会・日本農芸化学会・日本分子
生物学会・日本薬学会・有機合成化学協会・高分子学会
討論主題 核酸および関連化合物の有機化学、物理化学、分析化学、生化学および分子
生物学

発表形式

口頭発表は1演題15分(質疑の3分を含む)、この他にポスターセッション(全発表の1/3程度)を設ける予定です(多分研究概要口頭説明を含む)。どちらを希望されるかお書き下さい。1研究室から複数の演題を出される場合は、口頭発表は1題として申込んで下さい。口頭またはポスター発表の最終的な決定は組織委員会に一任願います。

講演申込締切 4月30日(木)

B5判大の用紙に、1)演題、2)発表者の所属・氏名(講演者に○)、3)連絡先(〒、Telも)、4)和文要旨(約200字)、を記載し、申込み受領通知の葉書(返信宛先および演題名を記入のこと)を添えて下記あてお申込み下さい。

講演要旨英文原稿締切 6月15日(月)

申込者には、後日、講演要旨作成要項、原稿用紙を送付致しますので、同要項に従って英文要項を作成の上、期日までにご返送下さい。要旨はNucleic Acids Symposium Series(1992年)としてIRL Press社より発行され、シンポジウム当日参加者にお渡しする予定です。また各要旨の別刷100部を印刷してもらい、当日購入していただく予定です(10,000円程度)。

参加予約申込締切 8月31日(月)

住所、氏名、所属を明記の上、郵便振替(福岡5-9081第19回核酸化学シンポジウム)にて下記参加登録費をご送金下さい。なお、参加登録証は当日会場にてお渡し致します。

参加登録費 予約:一般(共催学会会員)8,000円、学生5,000円

当日:各2,000円増し

懇親会 11月12日(木)18:30より、リーセントホテルで開催の予定。

参加費:一般8,000円、学生5,000円。原則として予約制とします。参加費を添え、参加登録予約時にお申込み下さい。なお可能な場合には、前日申込受付を行うこともあります。

宿泊案内、航空券割引案内

いくつかのホテルを確保しております。参加予約申込者には龍王旅行天神本部店核酸化学シンポジウム係(TEL 092-711-1885 FAX 092-751-1773、担当 竜口または西)より宿泊案内書等をお送りします。その他の希望者は上記あてにお申込み下さい。また、11月10日(火)夕方の東京-福岡、11月13日(金)夕方の福岡-東京便航空機各1便を、特別割引料金による団体便として設定する予定です。これについても参加予約者に龍王旅行よりご案内致しますので、希望者はお申込み下さい。

申込みおよび連絡先:〒812 福岡市東区箱崎6-10-1

九州大学理学部分子遺伝学講座

大島靖美 または 谷 時雄

TEL 092-641-1101 内線4420 or 4421

FAX 092-632-2741

○第22回 日本免疫学会総会・学術集会

会 期 平成4年(1992年)11月25日(水)~27日(金)

会 場 名古屋国際会議場(白鳥センチュリープラザ)

〒456 名古屋市熱田区熱田西町1番1号

TEL 052-683-7711 FAX 052-683-7777

会 長 岡田 秀親(名古屋市立大学医学部分子医学研究所)

〒467 名古屋市瑞穂区瑞穂町字川澄1

演題締切日 平成4年7月20日(月)(消印有効)

連絡先 第22回 日本免疫学会総会・学術集会 事務局

(財)日本学会事務センター 大阪事務所 気付

〒530 大阪市北区松ヶ枝町6-3 第10田淵ビル

TEL 06-356-6041 FAX 06-356-6190

日本分子生物学会 会報

年3回刊行（6月・11月・2月）

第41号（1992年2月）

発行：日本分子生物学会 庶務幹事

製作：学会センター 関西

（財）日本学会事務センター 大阪事務所